

＜ 今日の説教のポイント ルカによる福音書 10 章 1～16 節 ＞

1 (1-2, 7-8) 十字架の出来事に向かい始められた中で、急がれる宣教。

72 人の弟子たちの派遣の背景には、イエス様が十字架の出来事に向かい始められたことがあります(9:21-22, 31, 44)。その中でもイエス様ご自身ができるだけ宣教されるおつもりであり(「**ご自分が行くつもり**」(1))、その前備えをする働きであったのです。宣教場所は異邦人も多いヨルダン川の東側で(「**出されるものを食べ**」(7,8)はユダヤ人には不浄とされる物も食べなさいの意)、そこには福音を受け入れて喜ぶ人々が多くいたのです。それらの人々に福音を運ぶことが伝道であり、今の私たちの伝道についても色々考えさせてくれる個所です。

2 (3-4) 信仰者は何を危険とし、何を安全と考えるか。

「**行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ**」(3)は、ずいぶん無茶な言葉のように思われます。しかしそうではありません。イエス様は、「危険。しかし大丈夫。神様が守って下さるのだから。そのことを思わず色々用意しても不安は消えない(4a)。この神様の守りを固く信じ、なすべきことに集中しなさい(4b)」と言われているのです。今の私たちも覚え直しておきたい内容です。

3 (5-6, 9-11) 真の平和とは何で、それは何によってもたらされるのか。

この地域の人々の挨拶の言葉は「**シャローム (平和がここにあれ)**」です。しかしイエス様はここで、「単なる挨拶に使う言葉ではなく、本当の意味、深い意味で、平和をもたらしものを自分たちが持参していることを考えよ」、と弟子たちに語りかけておられるのです。では、その「**平和をもたらしもの**」とは何か？ イエス・キリストです。イエス・キリストがどのようなお方かを知ったなら、2で述べた内容が分かるようになるからです。「**『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい**」(9,11)は、抽象的な言葉ではなく、「**イエス様がこの後来られるから**」という具体的な内容で考えなければならない言葉です。

4 (12-16) イエス様を巡る厳しい言葉。それはこの方が重要だからこそ！

最後に厳しく聞こえる言葉が並んでいます。イエス様を受け入れない者についてです。しかしこの個所全体、そして聖書全体から考えると、むしろ次のように考えるべきでしょう。聖書の神様は、イエス・キリストを通して私たちが「**悔い改め:方向転換する**」(13)、真の平和の中を生きる者となりなさいと呼びかけて下さっているのだと。